

各 位

令和 6 年度稲作情報 第 9 号について

このことについて送付しますので、業務および水稻栽培の参考にしてください。

令和 6 年度 稲作情報 第 9 号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1. 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を 6 分割。1 半旬は 1~5 日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

※平年値:平成 22 年~令和 2 年(11 年)の平均値

月	半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R6	平年	R6	平年	R6	平年	R6	平年	R6
6	3	21.9	24.1	25.7	30.1	19.0	20.0	40.5	0.0	22.3	47.5
	4	22.4	22.9	26.1	28.6	19.6	19.1	54.5	102.0	20.6	27.5
	5	23.0	24.3	26.6	27.3	20.4	21.6	65.1	39.0	17.8	8.3
	6	23.9	23.8	27.3	26.2	21.3	21.9	73.6	74.5	14.8	0.5
7	1	24.7	27.8	28.0	31.1	22.2	25.4	87.3	93.5	15.2	28.3
	2	25.3	29.3	28.7	32.7	22.8	26.8	92.9	7.0	19.9	39.4

7 月 1~2 半旬の平均気温は平年より 3°C 以上高く推移した。7 月 1 半旬は数日間まとまった降雨があり、降水量は平年並みだった。2 半旬は降雨がほとんどなかった。7 月 1~2 半旬の日照時間は平年のおよそ 2 倍と長かった。

2. 生育状況

上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4 月 25 日移植 17.0 株/m²(56 株/坪)

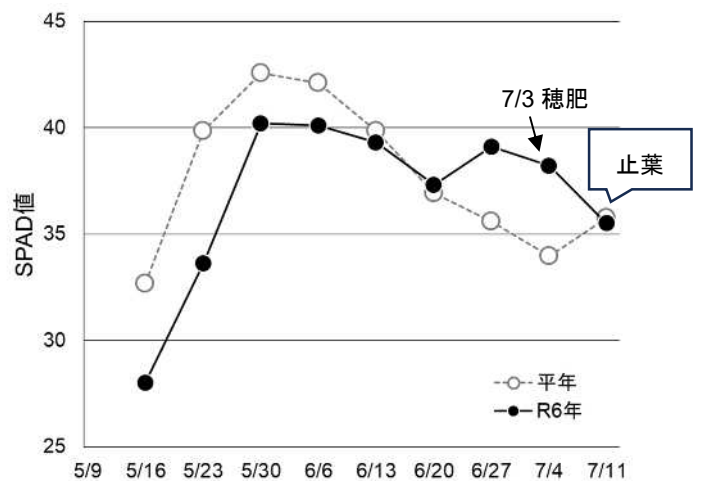
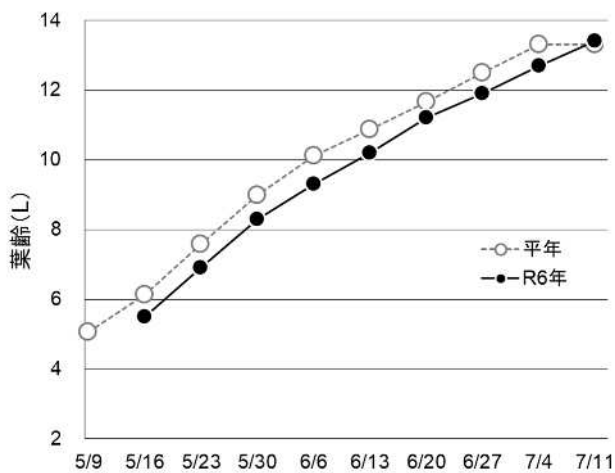
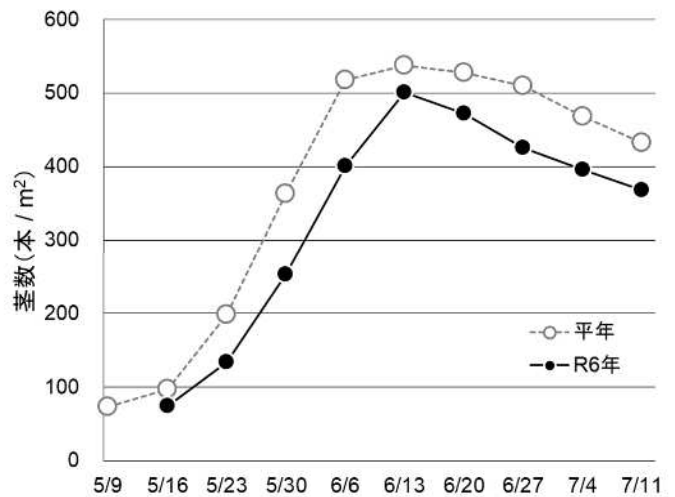
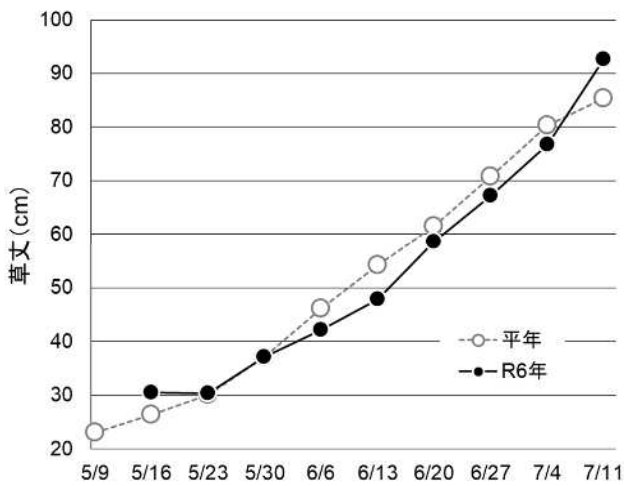
(7 月 10 日調査結果)

項目	本年	前年	平年	前年差	平年差	備考
草丈(cm)	92.7	—	85.3	—	109	高い
茎数(本/m ²)	368	—	433	—	85	少ない
葉齢(L)	13.4	—	13.3	—	0.1	平年並
葉色(SPAD)	35.5 ^{注1}	39.0 ^{注1}	35.8 ^{注1,2}	-3.5	-0.3	平年並
葉色(葉色板)	3.5	—	—	—	—	—
出穂期	7/10	7/9	7/10	1	0	平年並
止葉葉位(L)	13.4	14.3	13.4	-0.9	0.0	平年並

※平年値:平成29年~令和5年までの値から最高・最低値を除いた平均値

注1) 止葉

注2) 令和2年~令和5年の平均値



7月に入ってからの高温と7月3日に施用した穂肥により、生育が急激に進み、草丈は90cm以上と平年よりも高くなった。葉齢は13.4Lで止葉となり、平年並みであったが、茎数は回復せず、平年の8割程度にとどまった。葉色(SPAD値)は大きく低下し平年並みであった。

幼穂形成が平年よりも遅れていたが、7月に入ってからの高温により、急激に生育が進み、平年並みの7月10日に出穂期を迎えた。今週中にも穂ぞろい期となる見込み。

(参考:情報田平年値)

出穂期:7月10日 成熟期:8月13日

3. 今後の管理について

(1)水管理

- ・出穂前後(穂ばらみ期～穂ぞろい期)は最も水を必要とするため、間断灌水を継続するか浅水管理としてください。中干しが十分でない圃場では、落水時間を長くして地面を固めてください。不安定な天候がしばらく続くため、降水量が多い場合は深水にならないよう注意してください。ただし強風の場合は、稲体の水分収奪や稲体の動揺による茎葉の損傷を軽減するために深水としてください。穂ぞろい期以降は間断灌水にします。
- ・5月中旬以降に移植された圃場では幼穂形成期です。間断灌水を行いましょう。

(2)病虫害防除

①カメムシ類

- ・例年斑点米カメムシ類が多く発生しています。乳熟期(出穂 14 日後頃)に薬剤防除を実施してください。斑点米カメムシ類が散見される圃場では糊熟期にも防除を行ってください。
- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となります。例年斑点米カメムシによる被害が見られる圃場では、出穂 10 日前まで(止葉が完全に抽出する前まで)に除草を行いましょう。出穂 10 日前までに除草作業ができなかった場合は黄熟期まで見送るようにしてください。出穂直前以降に除草を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長されます。

②ウンカ類

- ・嬉野市の予察灯において、ウンカ類の誘殺が 6 月下旬以降に多数確認されています。
(県農業技術防除センター「海外飛来性病虫害情報第 4 号」より)
- ・今後の発生状況によっては臨機防除が必要になります。発生状況は圃場によって異なるため、田回りをを行い発生状況に注意してください。

③紋枯病

- ・昨年多発した圃場では菌核が圃場に残り、本年も発生するおそれがあります。株元の病斑発生状況を確認し、出穂前防除を実施してください。

④穂いもち

- ・不安定な天候が続く、いもち病が発生しやすくなっています。止葉や上位葉に病斑が見られる場合は、穂ばらみ期(出穂前)に薬剤防除を実施してください。

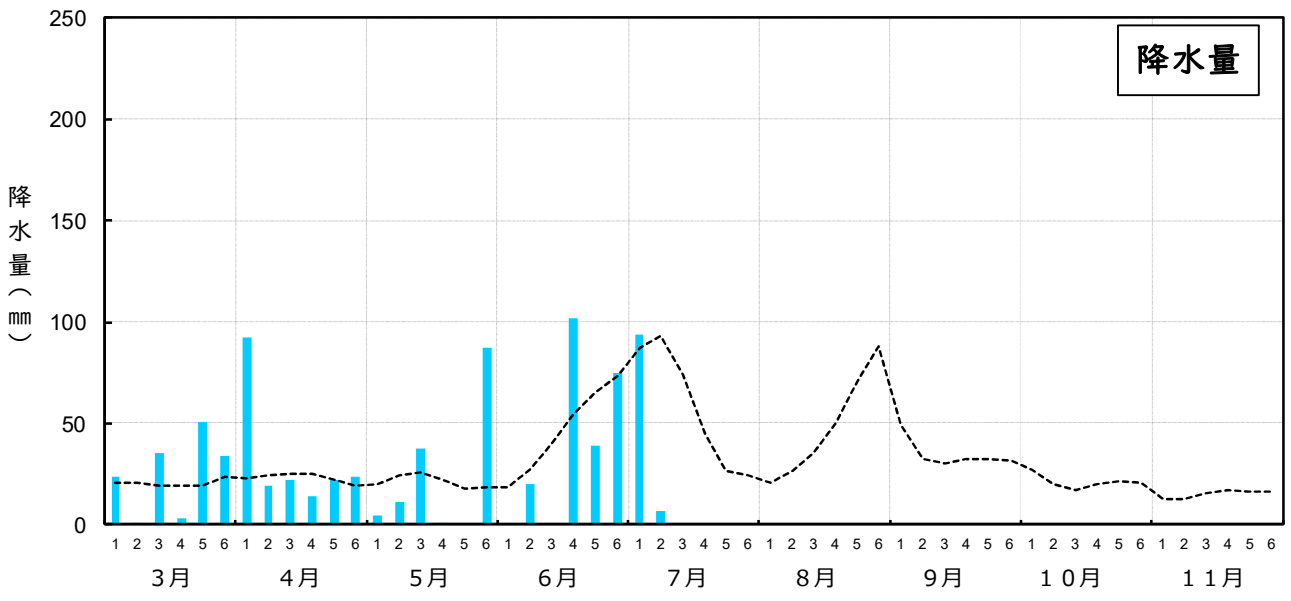
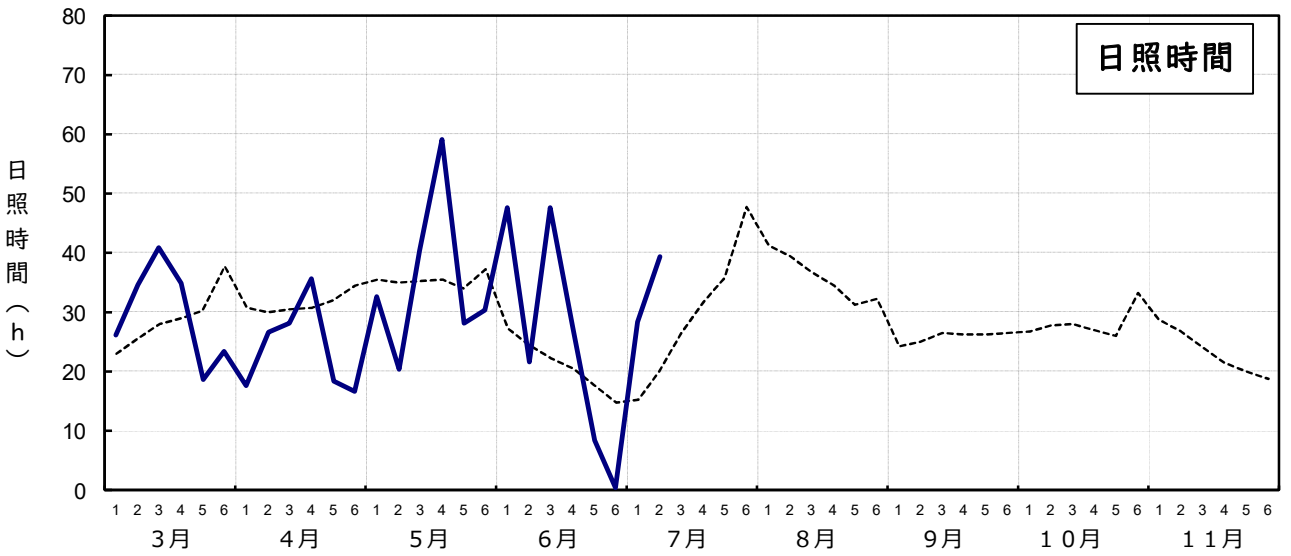
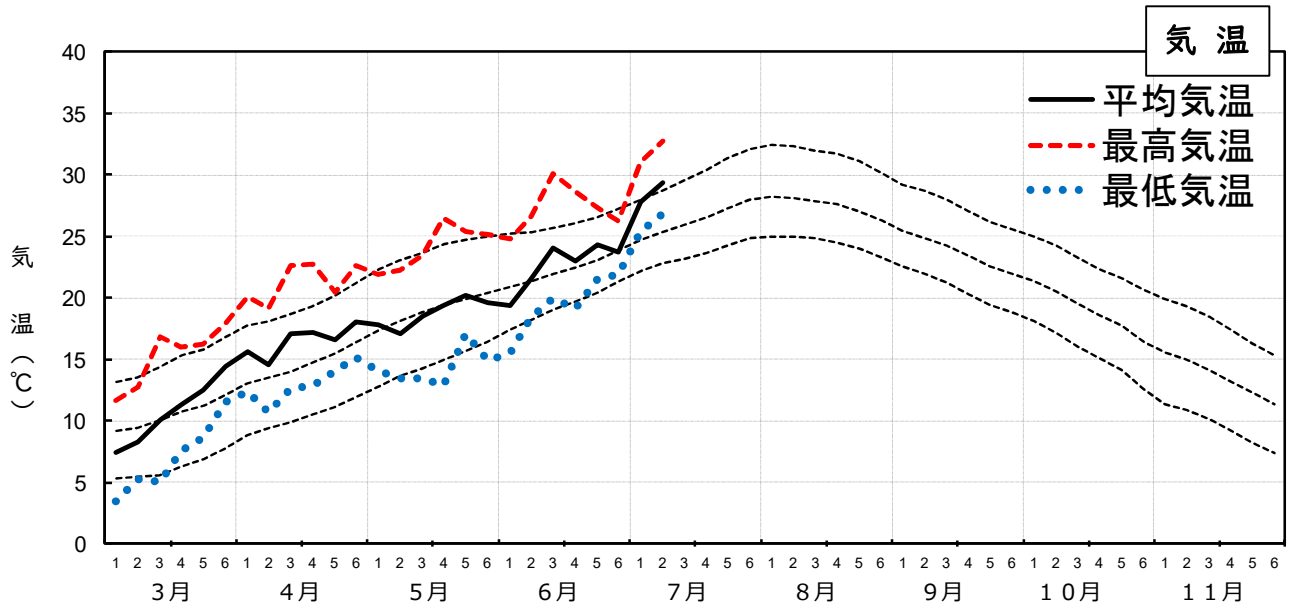
※散布にあたっては薬剤の使用時期を十分に確認してください。

※県特別栽培表示制度に取り組んでいる圃場では、使用可能な薬剤の成分数に上限があるので注意してください。

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
コラトップ粒剤5 (ピロキロン)	2回以内	本田2回以内	葉いもち:初発10日前～初発時 穂いもち:出穂30～5日前まで	湛水散布
ビーム粉剤DL (トリシクラゾール)	3回以内	本田3回以内	収穫7日前まで	穂ばらみ期での 散布効果が高い
ダブルカット粉剤3DL (カサガマイシン・トリシクラゾール)	2回以内	カサガマイシン:本田2回以内 トリシクラゾール:本田3回以内	穂ぞろい期まで	
ブラシン粉剤DL (フェリムゾン・フサライド)	2回以内	フェリムゾン:2回以内 フサライド:3回以内	収穫7日前まで	たばこ・大豆・小豆に かからないよう注意
ノンプラス粉剤DL (トリシクラゾール・フェリムゾン)	2回以内	トリシクラゾール:本田3回以内 フェリムゾン:2回以内	収穫7日前まで	たばこ・大豆・小豆に かからないよう注意

令和6年産 水稲作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成22年~令和2年の平均値

コシヒカリ刈取目安(平均気温積算表)

刈取適期(枝去木): 出穂後32~38日(積算気温で830~980℃)

唐津の気温に換算すると、出穂後32~38日は、積算気温で860~1020℃程度となる。

令和6年7月16日作成

東松浦農業振興センター 上場普及課

※唐津アメダスデータを使用

月	日	平年	本年	移植時期(上段)と出穂期(下段)				
				4月25日	4月26日	4月31日	5月5日	
				7月10日	7月12日	7月15日	7月18日	
7	10	25.8	28.0	出穂期				
	11	25.9	24.4	52.4				
	12	26.0	24.8	77.2	出穂期			
	13	26.1	25.7	102.9	52.1			
	14	26.3	24.0	126.9	76.1			
	15	26.4	24.8	151.7	100.9	出穂期		
	16	26.5		178.2	127.4	52.9		
	17	26.6		204.8	154.0	79.5		
	18	26.7		231.5	180.7	106.2	出穂期	
	19	26.8		258.3	207.5	133.0	53.5	
	20	26.9		285.2	234.4	159.9	80.4	
	21	27.0		312.2	261.4	186.9	107.4	
	22	27.1		339.3	288.5	214.0	134.5	
	23	27.2		366.5	315.7	241.2	161.7	
	24	27.3		393.8	343.0	268.5	189.0	
	25	27.4		421.2	370.4	295.9	216.4	
	26	27.5		448.7	397.9	323.4	243.9	
	27	27.5		476.2	425.4	350.9	271.4	
	28	27.6		503.8	453.0	378.5	299.0	
	29	27.6		531.4	480.6	406.1	326.6	
	30	27.7		559.1	508.3	433.8	354.3	
	31	27.7		586.8	536.0	461.5	382.0	
	8	1	27.8		614.6	563.8	489.3	409.8
		2	27.8		642.4	591.6	517.1	437.6
		3	27.8		670.2	619.4	544.9	465.4
		4	27.8		698.0	647.2	572.7	493.2
		5	27.8		725.8	675.0	600.5	521.0
		6	27.8		753.6	702.8	628.3	548.8
		7	27.8		781.4	730.6	656.1	576.6
		8	27.8		809.2	758.4	683.9	604.4
		9	27.7		836.9	786.1	711.6	632.1
10		27.7		864.6	813.8	739.3	659.8	
11		27.7		892.3	841.5	767.0	687.5	
12		27.6		919.9	869.1	794.6	715.1	
13		27.5		947.4	896.6	822.1	742.6	
14		27.5		974.9	924.1	849.6	770.1	
15		27.4		1002.3	951.5	877.0	797.5	
16		27.3		1029.6	978.8	904.3	824.8	
17		27.2		1056.8	1006.0	931.5	852.0	
18		27.1		1083.9	1033.1	958.6	879.1	
19		27.0		1110.9	1060.1	985.6	906.1	
20		26.9		1137.8	1087.0	1012.5	933.0	
21		26.8		1164.6	1113.8	1039.3	959.8	
22		26.7		1191.3	1140.5	1066.0	986.5	
23		26.6		1217.9	1167.1	1092.6	1013.1	
24		26.5		1244.4	1193.6	1119.1	1039.6	
25		26.4		1270.8	1220.0	1145.5	1066.0	
26		26.3		1297.1	1246.3	1171.8	1092.3	
27		26.2		1323.3	1272.5	1198.0	1118.5	
28		26.1		1349.4	1298.6	1224.1	1144.6	
29		26.0		1375.4	1324.6	1250.1	1170.6	
30		25.8		1401.2	1350.4	1275.9	1196.4	
31		25.7		1426.9	1376.1	1301.6	1222.1	

※ は刈り取り時期の目安を示す。

※ 刈り取り時期は目安なので実際に籾の黄化を確認して収穫時期を決める。

今後の管理

- 1 根の活性化のため間断灌水(湛水し水が無くなったら2~3日干して入水の繰り返し)とする。収穫の際、コンバインが入れないと想定されるくらい田面が緩い圃場では、早期落水はせず、間断灌水の落水時期を長めにとり田面を固める。
- 2 早期落水による凋落が一部圃場で見られますので最後まで入水(走り水)を行い土壌は黒乾状態を保つ。
- 3 早刈りをするとう米や未熟粒が多くなり、収量・品質が低下するので、籾の黄化が90%以上になるのを待って収穫する。